

# 5月の農作業

平成20年5月12日  
J A テ ラ ル 越 前  
奥越農林総合事務所

## 今月のポイント

- ★ 水稻除草剤の施用と適切な水管理
- ★ 大麦の赤カビ病防除
- ★ 大豆の圃場準備
- ★ 里芋の水管理
- ★ 花卉の栽培管理方法

## 1. 今後の気象予想（新潟地方気象台）

北陸地方 1か月予報

（4月26日から5月25日までの天候見通し）

### 〈予想される向こう1か月の天候〉

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

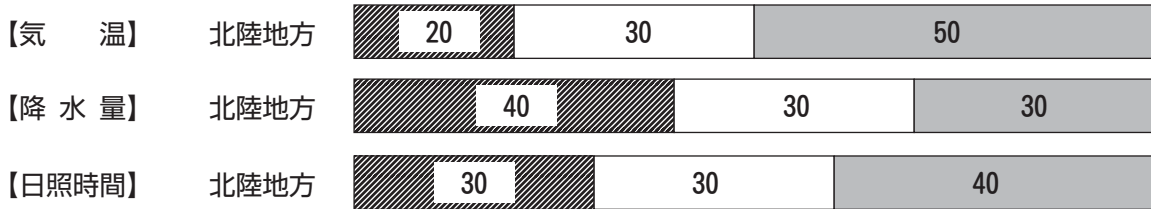
天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の気温は高い確率50%です。

週別の気温は、1週目は平年並または高い

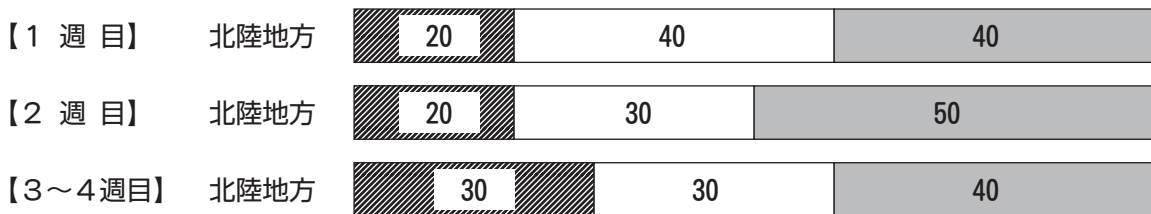
確率ともに40%、2週目は高い確率50%です。

### 〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）〉

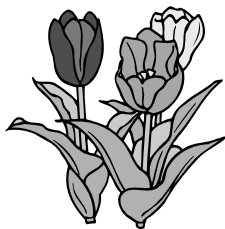


■ 低い（少ない） □ 平年並 ■ 高い（多い）

### 〈気温経過の各階級の確率（%）〉

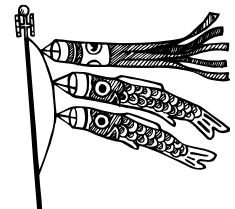


■ 低い □ 平年並 ■ 高い



### 〈予報の対象期間〉

- 1 月：4月26日（土）～5月25日（日）
- 1 週 目：4月26日（土）～5月2日（金）
- 2 週 目：5月3日（土）～5月9日（金）
- 3～4週目：5月10日（土）～5月23日（金）



# 北陸地方3か月予報

〈5月から7月までの  
天候見通し〉

〈予想される  
向こう3か月の天候〉

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は高い確率50%です。

5月 天気は数日の周期で変わるでしょう。期で変わるでしょう。り、気温は高い確率50%です。

6月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温は平年並または高い確率ともに40%です。

7月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温は平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)〉

【気温】 [北陸地方]	3か月	20	30	50
	5月	20	30	50
	6月	20	40	40
	7月	20	40	40
【降水量】 [北陸地方]	3か月	30	40	30
	5月	30	40	30
	6月	30	40	30
	7月	30	40	30

■ 低い(少ない) □ 平年並 ■ 高い(多い)

## 2. 農産物対策

### 水 稲

#### 1. 活着後の水管理

田植後は活着まで深水管理を行います。活着後はできるだけ浅水管理に努め、土壌中に酸素を供給し根の促進を図り、初期生育を高めましょう。

特に、中期除草剤の散布後は湛水状態にしなければならぬため、土壌中に酸素不足になりやすいので、施用前に軽い田干しを行ってください。

#### 2. 除草剤の散布

除草剤の効果を高める使い方のポイントは、均一散布と水管理です。散布前には深水をすると共に漏水防止を行ってください。

また、ジャンボ剤・液剤の除草剤は、圃場に均一に拡がらせるために風の無い時に散布してください。

中期除草剤のマメットSM粒剤を使用する場合は、高温障害を回

避するために遅くとも6月初旬までには散布してください。

#### 3. 溝切り作業

溝切りの効果は間断通水が容易にできるため、土壌中に酸素を供給し根腐れを防止するので、必ず中干し前の6月上旬に行いましょう。

溝切りの間隔は3〜5mとしませんが、1回の溝切りで溝が埋まってしまう場合は、数日後再度行ってください。

#### 4. 病虫害防除

##### 葉いもち

圃場に補植苗を放置しておく、葉いもちの発生源となるので早めに処分しましょう。ジャツジを苗箱施用していない場合は、6月上旬にオリゼメート粒剤を散布してください。

##### イネミズゾウムシ

稲の葉に縦縞の食害が見られたら「イネミズゾウムシ」の被害です。この虫は葉の食害よりも、幼虫による根への食害が生育に影響を及ぼします。田植え時にパダン

粒やジャツジ粒を施用してあれば、少々の葉の食害では心配ありません。しかし、都合により、箱施用できなかった場合や、前年多発した山際の圃場では、シクロパック粒剤を5月下旬頃散布してください。

## 大 麦

### 1、今後の管理

#### ①湿害対策

周囲の水田が湛水になったため、浸透水により排水溝に水が溜まっている圃場があります。麦は、これから湿害による影響を受け、収量・品質を左右するため、再度排水溝の整備を行ってください。

#### ②赤かび病の防除

赤かび病による被害粒が混入すると出荷できなくなります。赤かび病は麦の開花期（穂揃い期）頃が最も感染しやすく、この頃に雨が続きと多発します。

今年はお穂が早く、開花期が4月下旬～5月頃となっております。1回目の防除は既に済んでいると思

われますが、トップジンM（粉・水和剤）は農薬の登録上、1回しか使用できませんので、2回目はチルト乳剤25を使用してください。

### 2、収穫・乾燥

今年の収穫期は今後の天候により前後しますが、現在の生育から予想すると6月上旬～中旬頃となります。

外観的な収穫の目安としては、

穂軸や茎葉が完全に黄化し、穂首の曲がりが見られる時で、子実水分30%以下で行いましょう。早刈りは空胴麦の要因となりますので注意してください。

また、収穫期は高温・多湿であるため、刈り取り後は長時間放置しないで、早めに通風または乾燥を行い、水分13%に仕上げましょう。更に、調整は網目2.3mmで選別をしてください。

## 大 豆

### 1、圃場の準備

大豆は排水が良く通気性が富む

所を好みますので、早めに溝を切り排水対策に努めてください。

### 2、種子消毒

紫斑病の防除のためベンレートTで種子消毒を行いましょう。

### 3、播 種

大豆単作 5月下旬～6月上旬  
麦あと作 6月中旬

### 4、中耕・培土

中耕・培土は大豆の下部から不定根を発生させ、養分吸収の範囲をひろげ、また倒伏・湿害を防ぐため本葉3～4葉期に第1回目を行ってください。

#### トレーサビリティ・

#### 食品安全GAPの取り組み

JAテラル越前では、安全な農産物づくりと栽培日誌の記帳を通じて生産履歴の開示を行い、消費者等へ安心をお届けします。

※出荷対象者は必ず栽培日誌の記帳・提出をしてください。

※食品安全GAPのチェック項目が、生産履歴記帳日誌に記載してあります。確認、実施後にチェックマークをしてください。

## 里 芋

### 定植後の水管理

晴天続きの時は3～4日おきに夕方、地温が低くなった時に畝間灌水を行い、翌朝には排水を行う。長時間の滞水はさせないこと。

○水による肥料吸収効果で生育や収量が大きく左右されます。

## ナ ス

### 定 植

・定植1～2日前に植え穴を掘り、十分に灌水しておく。

・定植には、晴天・無風の温暖な日を選ぶ。

・高品質なナスの多収を図るために生育中の主枝間隔を35～40cm確保することが必要である。主枝4本仕立ての場合は、株間70～75cmとする。

### ソルゴー播種

・ソルゴーの播種を5月連休明けに行いましょう。畝には少量の肥料を施肥してください。

# 白ネギ

## 排水対策

- ・梅雨入り前に植え溝内に溝を作り、排水に努めましょう。

(軟腐病予防)

# 花卉

## キク

### 7月咲き(暮植え)の管理

- ・草丈30cmになったら小ギクは6本、中輪ギクは5本1マスに入るように間引き(すぐり)をします。芽立ちが多い品種は予め粗すぐりを行って初期生育を旺盛にしましょう。
- ・中輪ギクは花芽分化期に入り、わき芽が多く出てくるので、早めにわき芽かきを行います。
- ・5月下旬に入ると発蕾期に入るので、中輪ギクは中心の蕾を残して摘み取ります。小ギクはそのまま咲かせます。
- ・Bナイン(ホルモン剤・伸張抑制・800~1,000倍)は最も早い蕾が

確認できた時と摘蕾時に1回ずつ散布します。

### 8月咲き(春植え)の管理

- ・新芽が10cmになったら小ギクは6本、中輪ギクは5本1マスに入るようにするため小ギクでは1株3本、中輪ギクで2~3本に間引き(すぐり)をします。
- ・すぐりの後は風雨で倒れやすいので早めにネットをあげてください。

### 9月咲きの管理

- ・開花時期に合わせ順次挿し芽・定植・摘心(ピンチ)を行います。

### 病害虫防除

- 5月は病害虫の増殖期になりますので、予防に努めることが大事です。また、農薬の使用に関しては系統の異なる殺菌・殺虫剤を使用基準に従ってローテーション散布を心掛けましょう。(同系統の剤を連続使用すると病害菌や害虫が農薬に対する耐性を持ちます)
- ・白さび
- 最初、葉の裏面に淡黄白色の斑

点ができ、やがてこれが次第に大きくなり、直径3~5mmの茶褐色のイボのような病斑になります。

病斑が多発して葉裏一面に出ると、葉は枯れます。病状が進むと葉の表面にも斑点が出ます。非常に伝染力が強いので、病気にかかった葉は見つけ次第摘み取って焼き捨てましょう。

### (予防農薬)

- ジマンダイセンフロアブル・トリフミン乳剤・ベンレート水和剤・エムダイファー水和剤など

### (治療農薬)

- ラリー乳剤・チルト乳剤25
- ・ナモグリバエ

キクの葉に白いポツポツ(産卵痕)や白い蛇行した線(食害痕)があったら治療薬を散布してください。

### (主な使用農薬)

- カルホス乳剤・カスケード乳剤・トリガード液剤・ダントツ水溶剤など
- ・ヨトウムシ

5月上旬から新芽に多く発生しますので早めの防除が必要です。

### (主な使用農薬)

- スミチオン乳剤・DDVP乳剤
- 75・ハチハチ乳剤など
- ・ダニ

草丈が20~30cmに達した品種からピンポイントに防除してください。この作業を怠ると、梅雨明け高温乾燥期のダニの大発生につながります。

### (使用農薬)

- ニツソラン水和剤

## ユリ

- ・初期生育を旺盛にするため6月上・中旬頃までは、液肥(OK F11・500~1,000倍)を1週間に1度ずつ施用してください。

